

思いつくままに

看護学部特任教授 小笹 典子 (2019.9.18)

本学の図書館は、まさに静謐な時間を過ごすことのできる素晴らしい空間だと思います。階下の閲覧室は、さほど学生が多くないために、一層リラックス感があるように思います。ここでゆっくりと、好きな読書ができたらどんなにいいだろうと思いますが、実際は必要な文献を借りて、研究室に戻るという状況です。

何故か懐かしく感じられたのは、高校 3 年生の時に図書委員会の委員長をしていたからかもしれません。高校時代はずっと図書委員だったような気がします。司書の方が一人いましたが、図書整理の仕事は大変で、夏休み 1 週間くらいは委員たちがそのお手伝いをした思い出があります。

今年の 5 月にクラス会が東京で開かれ、幹事の方たちが、当時の写真や文集から関係者の分をピックアップして冊子にまとめてくれていました。その中に、生徒会誌に掲載されていた私の文章(図書委員長として)があり、すっかり忘れていた当時のことが思い出されました。

読書は「人の心を豊かにする」と言われますが、文章の上手な人は、まちがいなく読書家です。そしてまた、読書家はお話が上手です。様々なジャンルの読書により、想像力が膨らみます。今まで、考えなかったようなことに会うと、問題意識が芽生えます。もっと知りたいという欲求も出てきます。自分の世界から他者の世界へと広がっていきます。

赤十字は、「人道」を理念としていますが、この人道を阻むものが「無関心」「利己心」「想像力の欠如」「認識不足」の 4 つと言われています。さあ、どうでしょう？読書によってこれらの課題を克服することにもつながるのではないのでしょうか。

本学の態度目標である【気づき 考え 実行する】

まず、気づかなければなりません。気づくためには「感性」が必要です。これは読書だけでは難しいかもしれませんが、少なくとも「心が震えるような 1 冊」と出会えたかどうかはとても重要なことだと思います。私は、小学校時代に、担任の先生から与えられた「忘れられた子等 手をつなぐ子等」という物語に感動して何度も読み返していました。心身障碍児を扱った作品でした。このこともすっかり忘れていましたが、もしかしたら、教職につくことになったその後の私の人生に少なからず影響を与えていたのかもしれない。